

平面計画

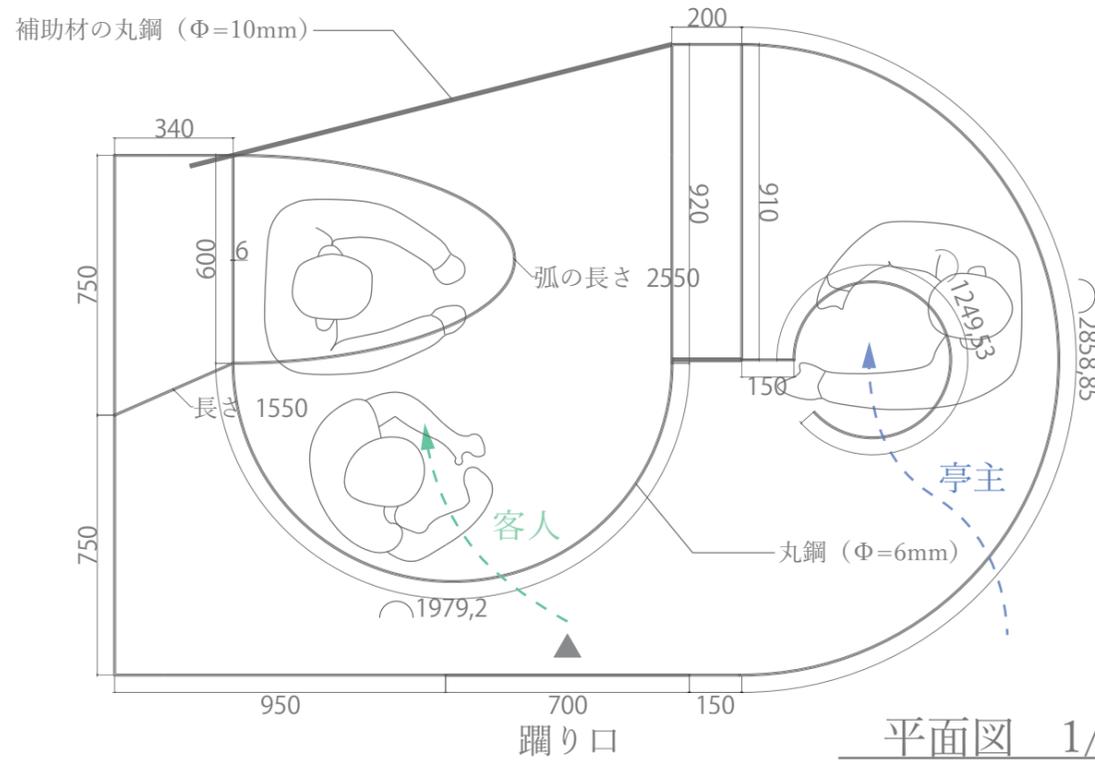
「くうき」を感じる茶室空間

線は面や立体のように、その周囲との関係を強く結ばない。

それにより線は「くうき」を捉える。

そして線の重なりは「くうき」をつくる。

その「くうき」を感じられる茶室空間となっている。



平面図 1/20

□内部空間

線はふるまいやモノの輪郭を描く。
茶室における空気感や作法における動作の輪郭線が立体的に重なっている。
その重なりによって「くうき」のグラデーションが生まれる。

□外部空間

「それ」は外部からは知覚できない。
「それ」は周辺環境と一体化する。
「それ」は空間にとっての違和感となる。
「それ」は幽霊のように知覚できないが確かにそこにいる。

それは真夜中に灯が灯る _



1. 「それ」は知覚できないがそこに佇んでいる
2. 亭主がやってきて灯を灯し、面を掛ける。
3. 「それ」が知覚され始める。亭主は支度を始める。
4. その空間（それ）を知覚した人が誘われる。
亭主はその人らをもてなす。
5. お手元を照らされながら茶と菓子を味わう。
6. やがて灯は消える。
静寂の中、「それ」はまた知覚できなくなる。